

取扱上のご注意

選択上のご注意

1. 防火性について

建築物の内装仕上げは、建築基準法により防火上の基準が定められており、建築物の用途や規模・構造に応じて防火材料の使用が義務づけられています。壁紙の防火性能は、下地基材や施工方法との組合せによって決まりますので、事前に必ずご確認ください。

2. 機能性壁紙について

機能性壁紙をご利用の際は、特徴や注意点をご理解の上、ご使用ください。

3. 使用環境について

高温、高湿、水漏れの環境や屋外での使用は避けてください。

4. 柄合わせの必要な商品について

柄合わせを要する商品は、リピート表示のない商品よりも要尺が多くなります。なお、商品は施工糊の水分や温湿度によって伸縮するため、表示寸法と実際の商品では多少の差異が生じます。表示寸法は要尺を算出するための目安としてご覧ください。

5. 施工費について

商品や現場の状況によって施工費が割増になる場合があります。施工費の割増対象としては、「ボーダー」「汚れ防止」「表面強化」「製品厚が薄い商品」「表面がフラットな商品」など、下地処理や施工に手間がかかる商品群です。あらかじめご確認の上、商品選択をお願い致します。

6. 見本・サンプル・写真について

製造ロットの違いにより、見本やサンプル帳と実際の商品が若干異なる場合があります。なお、施工例写真は、照明の影響や印刷の都合上、実物と多少違って見える場合がありますので、ご了承ください。

7. 壁紙商品上の特性について

ビニル壁紙などは、リピート表示のない商品でも基本的にある単位と同じ柄の繰り返しで出来ています。特にエンボス加工品は、見る角度や光の当たり方によって微妙な凹凸の繰り返しが目立つ場合があります。これはエンボスロール製造上の特徴であり、現在の技術では完全に防ぐことはできません。

また、特にフラットな商品や横方向のテクスチャーの商品などはジョイント部が比較的目立ちやすい傾向にあります。これは塗装とは異なり、つなぎ合わせて施工する壁紙である限り避けることのできない商品特性です。あらかじめご了承ください。

8. 商品の仕様変更・供給について

改良その他の事情により、予告なく仕様変更を行なうことがあります。また、生産中止などにより供給不能となる場合があります。あらかじめご了承ください。

荷扱い・保管上のご注意

1. 無理な運搬はしない

ロール状に巻かれた壁紙は重量物となるため、人力で取り扱われる際には十分な安全確保をし、腰痛などの原因となる無理な運搬はしないでください。

2. 高所から落とさない

商品は、トラックの荷台などの高いところから落とさないでください。商品の破損やケガなどの危険を伴います。

3. 保管上の注意点

保管場所は、火気・水・湿気・直射日光を避けてください。また、商品を地面へ直に置いて保管しないでください。

4. 保管はタテ置きで

商品はタテ置きで保管してください。ヨコ積みや井桁積みは置き跡がつきやすく、光沢差やエンボスつぶれの原因となります。



タテ置き



ヨコ積み



井桁積み

商品受領時のご注意

1. 商品確認

受領時には、納品書と商品現品、ロット、数量を確認してください。万一、ご注文品と違う品番や規格外の商品が納入された場合は、購入先へご連絡ください。

2. ロット違い商品について

ロット違いの商品には、色差などが生じることもありますので、同一ロット品をご使用ください。できれば一巻の至近の箇所同士を張り合わせてください。

施工上のご注意

以下の内容は、壁紙全般についてのごく一般的な注意事項です。特に注意が必要な商品については、各商品の施工要領をご参照ください。

下地の調整

1. 下地と同色のパテを使用

必ず下地と同色のパテをご使用ください。下地と異なる色のパテを使用しますと、施工後、下地の色が透けて見える場合があります。また、下地からの影響を防ぐためにも文字や汚れはきれいに処理してください。

2. きれいな仕上がりは平滑な下地から

施工後の不陸を防ぐため、下地は平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈め、サビ止めをしてください。

3. 下地や状況に応じたシーラー処理を

ペンキ・コンクリート・モルタル・木質系下地の場合は、それぞれ専用のシーラーを必ず下地処理をしてください。特にベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間がたつとシミや変色の原因になります。シーラーは接着不良や変色を防ぎ、リフォーム時に剥がしやすくなります。

4. 下地は乾燥させてから

コンクリートやモルタルなどの湿式下地、およびシーラー、パテを施した箇所は十分に乾燥(目安として水分率11%以下)してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビが発生することがあります。

5. オイルステインなどの下地は避ける

オイルステイン、ニスなどを使用している下地や近接した場所への施工は避けてください。変色の原因になります。

6. カビが発生している場合

張り替え時、下地にカビが発生している場合は、十分にカビを殺菌し、乾燥させてから施工してください。

7. 浮いた裏打紙の処理

張り替え時、下地面に残った裏打紙(残紙)は剥がしてから施工してください。残紙が浮いたまま施工すると目障りなどの原因になりますのでご注意ください。

施工糊と施工環境について

1. 施工環境に合わせた準備

冬期など低温時には壁紙が硬くなり施工しにくくなる傾向があります。状況に合わせて接着剤の配合やうませ時間を調整したり、部屋を暖めるなどの配慮をお願いします。特に5℃以下の環境では糊の接着力が弱く、施工不良の原因になりますので、施工糊の注意事項を必ず守ってください。

2. 糊付後の注意点

壁紙の品種や室内環境に応じて、適切なオープンタイムを取ってください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。また、壁紙をきつく折り畳んだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生し、元に戻らない場合があります。

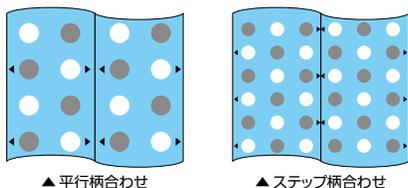
張り付け

1. 有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含まれません。有効巾を超えた使用は、左右色違いの原因となります。

2. 柄合わせマークの確認

柄合わせを要する商品は、柄合わせマーク同士を目安に、柄を確認しながら施工してください。柄合わせの必要な商品は、サンプル帳に「リピート」を表示しています。特にステップ柄合わせは、一般的な平行柄合わせとは合わせ方が異なりますので、ご注意ください。(商品特性上、左右の柄合わせマーク位置の僅かなズレや柄合わせマークがない場合があります。ご了承ください。)



3. ジョイント位置について

ジョイント位置は、端部同士で施工してください。両端部と中央部では、色差が生じる場合があります。また、張り残しや部分補修に残材を使う場合は、色違いが起きやすいので天地・左右を十分に確認の上、施工してください。窓の上下など一部だけを横張りにしたり、他の部分と不調和な柄合わせをすると、色違いを生じますので、必ず同じ方向で張ってください。

4. 石膏ボード下地の注意点

カッター刃で石膏ボードの原紙まで切り込むと目隙の原因となりますので、カットの際は下敷きを使用してください。また、ボードの合わせ目ではジョイントしないでください。仕上がりに支障をきたすことがあります。

5. ベニヤ下地の注意点

ベニヤなどの木質下地に重ね断ち施工する場合、カッターでシーラー塗布面を傷つけますとアクのしみ出しによる変色の原因となりますので、カットの際は下敷きを使用してください。もしくは突き付け施工をおすすめします。

6. ジョイント部のカットについて

ジョイント部をカットする際は、目隙を防ぐため、必ずカッターの刃をまっすぐに入れてください。また、地ペラを使った重ね切りは避け、定規をご使用ください。地ペラを使うと切り口が斜めになり目隙の原因となります。

7. 三巾ほど施工した時点で状態を確認

商品検査には十分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で問題のないことをご確認ください。明らかに製品に欠陥があると判断された場合には、ただちに作業を中断し当社までご連絡頂けますようお願い申し上げます。三巾以降相当量の作業を進行した場合、施工費賠償の請求、商品の返品等は原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

8. 入隅の処理は建物の構造に適した方法を

ボードやパネル下地の継ぎ目をまたいで壁紙を施工すると、入隅にフクレやよじれ・割れなどが発生する場合があります。これは、建物の構造上継ぎ目が振動の逃げ場になっているため、避けることは出来ません。ましてや下地の動きを壁紙で防ぐことは不可能です。できるだけ入隅で壁紙をジョイントすることをおすすめします。

養生

1. 粘着性の強い養生テープは使用しない

粘着性の強いマスキングテープの使用は避けてください。テープの粘着剤が壁紙に固着し、変色や汚れの原因となります。また、テープを剥がす時に壁紙表面が破損する恐れがあります。

2. 付着した糊や汚れの処理

壁紙の表面や廻り縁などに糊、汚れなどがつかないように十分注意して施工してください。付着してしまった場合は、きれいな水を含ませた布で直ちに拭き取ってください。特に濃色の壁紙の場合は、やさしく丁寧に拭き取った後、乾拭きせずに自然乾燥させてください。乾拭きで強くこすると傷や白化が起き易くなります。また、糊が付着したまま放置すると、カビや変色の原因となります。

3. 施工後は自然乾燥を

施工後は、接着剤が安定するまで自然乾燥させてください。その間、冷暖房を強くかけ過ぎないようにお願いします。急速に乾燥させると剥がれ・めくれなどの原因となります。

4. 換気を十分に

施工中および施工後一週間程度は、換気を十分に行なってください。換気が十分でないと、室内に臭いが残る場合があります。

廃棄上のご注意

1. 残材を焼却しない

ビニル壁紙の残材やサンプル帳を焼却しないでください。燃やすと塩化水素ガスなどが発生し、目・粘膜などを刺激しますのでご注意ください。

2. 壁紙の残材は適切な廃棄処理を

壁紙の残材やカタログを処理する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。少量の残材を一般廃棄物(家庭ゴミ)として処理する場合は、市町村条例に基づき処分してください。なお、業者の方が廃棄する場合には産業廃棄物となりますのでご注意ください。

施工要領

特に注意が必要な商品の施工要領です。これらは、一般ビニル壁紙に比べ施工難易度が高く、施工費が割増になる場合があります。あらかじめご了承ください。一般的な壁紙の施工方法や、壁紙全般に共通する基本的な注意点は「取扱上のご注意」をご参照ください。

消臭+汚れ防止 LL-5389~5439 LL-5846~5897

壁紙表面に、ポリプロピレン製の汚れ防止フィルムをラミネートした商品です。一般ビニルに比べやや硬くカールしやすい傾向があり、寒冷時には出入隅部の収まりが悪くなることがあります。フィルムによるツヤがありますので、光の加減で下地が見えやすくなる天井には不向きです。あらかじめご了承ください。

●低温時は室内を暖めて

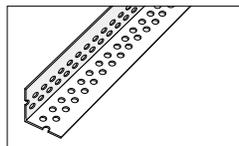
5℃以下の環境では糊の接着力が弱くなり、フクレや施工不良の原因となります。また、壁紙自体も硬くなりますので、施工効率が下がります。できるだけ室内を暖めて、壁紙を馴染ませ柔らかくしてから施工してください。

●モルタル下地にはシーラー処理を

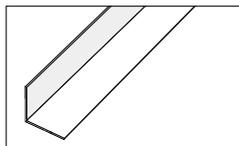
アクによる変色やフクレを防ぐため、必ずシーラー処理を行なってください。特に低温時にはフクレがおきやすくなりますのでご注意ください。

●下地コーナー材は穴あきタイプを

下地コーナー材は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。



穴あきコーナー材



一般的なコーナー材

●張り付け時のカール癖

一般ビニル壁紙に比べやや硬くカール癖がつきやすい傾向があります。特に巻き芯に近い部分や寒冷時には、材料を逆巻きにするなどカール癖をとってから施工してください。収まりが悪い場合は、ジョイント部や出入隅部にエチレン酢ビ系ボンドを原液で捨て糊するなどの処置を施してください。

●接着剤とオープンタイム

接着剤は、濃目(6~7割希釈)のものにエチレン酢ビ系ボンドを10~20%程度混合してください。接着剤塗布後はうませ時間を20~30分程度とってください。寒冷時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。

スーパー強化+汚れ防止 LL-5898~5946

強化配合の塩ビ樹脂層に、汚れ防止エパールフィルムをラミネートした商品です。エアが抜けにくく、特に低温時にはフクレが生じやすくなりますので注意が必要です。フラットでフィルムによるツヤがあるため、光の加減で下地が見えやすくなる天井には不向きです。あらかじめご了承ください。

特に硬い品質が特徴の壁紙ですので、「消臭+汚れ防止壁紙」の施工要領に加えて以下の点にもご配慮ください。

●モルタル下地にはご注意ください

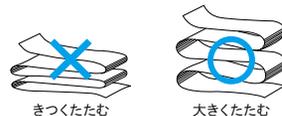
基本的にモルタル下地には向きませんが、施工する際には必ずシーラー処理を行なってください。フクレ回避に有効です。

●冬季・寒冷地では室温15℃に暖めて

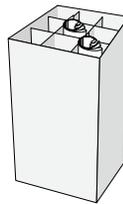
寒い時期には、壁紙が余計硬くなり施工しにくくなります。室温を15℃以上上げて施工してください。

●糊付け後のたたみ方、養生時のポイント

接着剤塗布後は大きいたたみ、上積みを避けてください。フィルムが折れてたたみジワが発生する場合があります。



たたみジワに注意し、重ね置きを可能にするため、一度たんだものを丸める「丸め置き」をおすすめします。



専用ボックスは、折れジワ防止だけでなく、運搬にも有効です。

●なで付け注意

特に、モルタル下地ではプラスチック製のヘラを使用し、ていねいに繰り返しエア抜きを行ってください。

●糊の拭き残し

施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にきれいなタオルなどで拭き取ってください。

●接着剤とオープンタイム

接着剤は、接着強度が高く濃いものを少なめに塗布できる原液タイプがおすすです。接着剤塗布後、20~30分程度うませ時間とってください。寒冷時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。

●出隅・入隅は、ボンド捨て糊がおすすめ

出隅・入隅など角の出にくい場合は、下地側にエチレン酢ビ系のボンドを捨て糊するなどの処置を行ってください。また、出隅の角をしっかりと出すためには、角部分の壁紙表面からきれいな布で、角をしっかりと押さえながら擦ってください。

●なで付けは、プラスチック製のヘラがおすすめ

硬い壁紙のため、柔らかい撫で刷毛では圧着やエア抜きが困難です。プラスチック製のヘラを使って、ていねいに繰り返しエア抜きを行ってください。

使用上のご注意

壁紙は色や柄などの意匠性を重視した化粧仕上げ材ですから、コンクリートなど他の建材と異なり、10～20年といった長期間に渡る維持は期待できません。したがって、ある程度の期間はメンテナンスを行ない、次いで張り替えるという使い方が、壁紙の価値を活かす最適な方法です。

壁紙は室内のホコリや油汚れ・手垢などにより自然と徐々に汚れていきます。仕上がりの美しさを維持していただくためにも、使用上の注意とメンテナンスにご配慮ください。壁紙の耐用年数は、使い方次第で大きく異なってきます。

一般的注意事項

1. 入居後は、まず換気を

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行なってください。

2. 直射日光からの保護

直射日光が当たると、紫外線により色褪せがしやすくなります。部屋を使用していないときは、カーテンやブラインドを活用し、直射日光を避けるよう心がけてください。

3. 高温・熱風を避ける

ストーブなど暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。

4. 粘着テープを貼らない

粘着テープ（セロハンテープやガムテープなど）を壁紙に貼らないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙が破損することがあります。

ホコリや汚れ

ホコリは、時々ハタキをかけたり電気掃除機などで吸い取ってください。不要になったストッキングを細長い棒に巻きつけて、静電気でホコリを吸い取る方法も効果的です。ホコリや汚れを放置しておきますと、湿気や油分を吸って取りにくくなりますので、長時間放置しないようにしてください。汚れには多種多様なものがあり、種類や放置時間によって除去できない場合があります。

●汚れが付着したら《一般ビニル壁紙の場合》

ビニル製の壁紙は、一般的に吸湿性や通気性がほとんどないので、シミやホコリには強く、手垢や油汚れには比較的弱いというのが特徴です。数ある壁紙の素材の中でもメンテナンス性に優れた部類にあり、軽い汚れなら水拭きや洗剤で落とすことができます。但し、表面にフィルム加工された汚れ防止壁紙と異なり、クレヨンや水性ペンなどの頑固な汚れは落とせません。

飲食物や調味料などの水汚れは、直ちにかたく絞ったスポンジやタオルで汚れを吸い取るように拭き取ってください。最初から強くすると、汚れが染み込み広がりやすくなりますので注意しましょう。落ちにくい場合には中性洗剤をご使用ください。出来るだけ早急に対処することが汚れを落とすコツです。

拭き掃除が終わりましたら、必ず真水かぬるま湯で洗剤が残らないようきれいに拭き取ってください。洗剤の拭き残しは変色の原因になります。

※強い洗剤やシンナーなどの有機溶剤は、変色や表面破損の原因になりますので使用しないでください。

※張り合わせ部分に水が入ると剥がれの原因になりますのでご注意ください。

※壁紙を拭く場合はあまり強くこすらないでください。壁紙表面が破損することがあります。

部分的な剥がれのメンテナンス

時間の経過と共に部分的な剥がれが生じる場合があります。きれいに補修するコツはできるだけ早く対処することです。剥がれてから時間が経ったものや、劣化して固くなったものは補修が困難になります。剥がれが広がる前に下地の汚れを取り去り、木工用水性接着剤など強めの接着剤を壁紙裏面に塗り付け、十分圧着してください。特に部屋のコーナー部、サッシや水のかかりやすい洗面台の周囲、通気の悪い箇所などは注意しておきましょう。このような場所には、あらかじめコーキングで枠回りをコーキングしておけば、ある程度剥がれを防ぐことができます。

カビ

カビは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーや喘息など、病気の原因になることがありますので注意が必要です。カビの発生や繁殖を抑制する「防カビ」壁紙もありますが、壁紙単体でカビの発生を防ぐことは不可能です。カビは住宅の構造や生活環境に大きく影響を受けます。常に換気を心がけ、通風を良くし、湿度の上昇をおさえてください。

●カビが発生したら…

カビが発生してしまった場合は、ハウスクリーニング会社などにご相談ください。

5. 薬品や化粧品などを付着させない

スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品を壁紙に吹き付けしないでください。壁紙が変色することがあります。

6. 家具を壁面に密着させない

家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙の間は空間の余裕をとってください。空間を設けることは、変色だけでなく結露やカビの予防にもなります。

7. 室内空気の汚れについて

室内空気の汚れ（ホコリ、タバコ、キッチンからの油煙など）は、壁紙を短時間で黄変させてしまいます。特に壁紙のジョイント部は、壁裏面との通気口となりやすく、壁紙表面と比較し空気の流れが集中するため汚れが目立つ場合があります。できるだけ室内の換気を心がけてください。

●汚れが付着したら《汚れ防止壁紙の場合》

「汚れ防止」壁紙は、表面のフィルム加工により壁紙内部に汚れが浸透しにくく、汚れが拭き取りやすくなっています。日常生活の一般的な汚れ・飲食物の汚れなら水や中性洗剤で落とせます。

日常生活の汚れは、かたく絞ったスポンジやタオルで水拭きしてください。落ちにくい場合は中性洗剤をご使用ください。歯ブラシでこするとより効果的です。

強い洗剤や溶剤の種類によっては変色を起こすことがありますので、念のためあらかじめ目立たないところで試してからにしましょう。壁紙表面に残った洗剤は変色の原因になりますので、真水かぬるま湯できれいに拭き取ってください。

※張り合わせ部分に水が入ると剥がれの原因になりますのでご注意ください。

※表面のフィルムが破損すると、その部分の汚れ防止機能は失われます。拭き取る場合はできるだけ柔らかい布やブラシなどをご使用ください。また、何度も拭き取ることによって目に見えない微細な傷がつき、次第に汚れ防止性能は低下していきます。あらかじめご了承ください。

※汚れ防止機能は、突発的な飲食物の付着や落書きをすぐ拭き取るには適していますが、タバコのヤニのように少しずつ蓄積していくつこい汚れを完全に除去することは困難です。できるだけ換気を行ない、汚れが付かないよう心がけましょう。

結露

結露や過度の湿気は、シミ・剥がれ・カビの原因となりますので、室内の換気や湿度調整を心がけてください。

●換気・除湿を行なう

常に換気を心がけ、発生した水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や料理時の水蒸気などは換気扇を利用して排出してください。除湿器、吸湿剤などを活用し、余分な水蒸気を除去することも有効です。

●通気をよくする

家具裏などの隙間に余裕を取り、家全体の空気の流れをよくする工夫をしてください。

●冬の結露について

室内と外気の温度差が激しい冬は結露しやすい時期です。加湿器を使用した後は特に結露しやすくなります。換気や除湿に十分に注意しましょう。外に面した室内の壁が異常に結露する場合は、断熱材の不足や不備、建物自体の構造の問題が考えられますので、早めに対処しましょう。